

2011年度

科目名	国文学特殊研究Ⅰ				
担当教員	鈴木 利一				
配当	国修1・文修1・国博1			コード	43020
開期	通年	講時	木曜日3限	単位数	4
授業テーマ	『日本霊異記』の研究				
目的と概要	この講義では、我が国最古の仏教説話集である『日本霊異記』を読み進めます。『日本霊異記』は、九世紀初頭の成立と見られる仏教説話集である。収集された説話は、その素材を雄略朝にまでさかのぼる時代に求めており、平安京以前を生きた人々の息吹我々に伝えている。そこに登場する人物達は、その多くが尊貴なる存在とは対極的に生きる人々であり、多種多様な上代の社会状況を描写しているものと言えます。この作品を読み解く調査・作業の過程では、こうした社会環境を知るための歴史資料や仏典・漢籍等にふれることも必要となるはずです。これにより文献批判の基礎技術を習得することも講義の目的の重要な要素です。また、編者景戒の生きた時代は、日本文学史上最大の国風暗黒期に重なります。こうした文学史的観点から、当時の述作の担い手達の諸相にもふれてみたいと考えています。				
成績評価法	講義への参加状況、発表資料・課題等の提出状況、発表や課題に取り組む姿勢等を勘案し総合的に判断します。				
テキスト	『日本霊異記』の全説話本文が、原表記の形で記載されているものならば何でもよい。				
参考書					
履修に当たっての注意・助言／準備学習	講義に参加する者は、必ず前後期一回ずつは、担当者として発表に当たることを要望します。また、当日の発表を担当していなくとも全員が当事者としての意識を高く保持し、活発な討議を通してより深い作品理解への到達を目指すことを期待します。事前学習時の資料収集にあたっては、文献の所在を広範囲求め、それぞれの資料への効率的なアクセスが可能になるよう努力して下さい。受講後の再分析時には、工具書の利用法などを再検討してみてください。				
講義計画					
はじめの数回で『日本霊異記』の構成とその撰述が進められた八世紀末から九世紀にかけての文学状況について概説します。 1. 『日本霊異記』の構造と成立(第1回) 2. 景戒とその時代、八世紀末～九世紀初頭にかけての文学状況概説(第2、3回) 3. 古代文学研究のための文献とその利用法(第4回) これ以降の講義形式は演習形式に講義を交えた形態で行い、参加者が『日本霊異記』各巻収録説話を順次担当し仏教思想と物語とが、どのように連携して表現世界を形成しているのかを考察します。担当者は、調査をもとに資料を作成し発表していくことになります。 4. 上巻第四話(第5～7回) 5. 上巻第五話(第8～10回) 6. 上巻第六話(第11～13回) 7. 前期読解説話のまとめ(第14、15回) 8. 上巻第七話(第16～18回) 9. 上巻第八話(第19～21回) 10. 上巻第九話(第22～24回) 11. 上巻第十話(第25～27回) 12. 上巻第十一話(第28～29回) 13. 後期読解説話のまとめ(第30回)					